

# 右傾化くい止める 力を結集しよう

山下慶喜  
(大阪府茨木市議)



鹿兒島出身、学生時代  
に社会党に入。80年4  
月の補欠選挙に27才で当  
選、7期22年目。議会で  
は情報公開、インフルエ  
ンザ予防接種、反原発、  
水、動物保護、介護保  
険に取組む。市民派と新社会  
党大阪府本部委員長

私は桂陸子議員と二人で「元気市民」の会派を構成している。市民派が複数になると、しつくりいかにケースがあるが、茨木はうまくいっている好例だろう。桂議員の妊娠を巡って私の子どもだとの噂が流れ、選挙妨害に利用しようとする新聞が書き立てた。名誉毀損で裁判中である。この新聞は日頃から私を「保守系の議員に蛇蝎のごとく嫌われている」「日の丸・君が代に反対する反国家主義者」と宣伝しているが、うれしい限りである。

## 安威川ダム反対運動

八〇年四月の補欠選挙で初当選、その直後に関わったのが、大阪府が茨木北部で洪水調節、水道水の確保を目的として進めている安威川ダムへの反対運動である。今でこそ無駄な公共事業の典型としてダムが取り上げられるが、当時、府・市の行政、議会はダムに疑問を持たずに推進一色。議論は補償問題くらいだった。ダムに疑問を持ち始めた市民グループと勉強を始め、ダムに関する資料を読み漁り、安威川ダムはどうかの検討を始めていった。その集大成が、除名覚悟でやった八年三月の質問である。ダムは疑問との質問に、社会党の先輩議員はどうなっても知らんと言いつける、議場は騒然とし、市長は党の府議にどう

いってとだと電話をかけ、府議は俺の立場はどうなると責め立てた。ダム反対のグループや一部の党員を除けば、四面楚歌の状況だったが、自分の言いたいことは言う、誰にも遠慮しない。そんな議員スタイルができたのはこの質問が大きい。

以前に増して安威川ダムに対する疑問や反対は大きくなっている。時代はダムによる治水から総合治水に変わり、水需要の停滞、更には大阪府が赤字再建団体すれすれの財政危機となり、オオタカ、オオサンショウウオ、アシメドジョウといった生態系破壊、採石場、堆砂、断層、劣悪な基礎岩盤……と問題点は山積している。またダムは未着工であり、反対運動はこれからだと考えている。

## 議会での攻防

議員はいったん当選すれば、質問しなくても報酬に変わりはない。私は議員の本業である質問をしないで報酬を受け取るのは気が引け、議会毎の質問を自分に義務付けている。もともと茨木には発言時間の制約はなかった。ところが発言しない議員には、これが目障り、異議なしで早く終わることしか頭にない。三十六名全員発言意欲があると強弁し、質問時間の制限を自公民の多数で押し切った。これに味をしめた彼らは、論理よりも多数で議員定数削減、請願への反対などを押し切っている。

小泉政権の高支持率で右傾化は地方議会にも及んでいる。二月までは自民沈没と自嘲していたのが、六月は教科書に

介入する朝鮮、中国はけしからん。扶桑社の教科書を採用せよ、さらには議会に日の丸を掲げると威勢がいい。日の丸に頭を下げず、君が代は歌わない、卒業式などの式典では着席で抵抗してきた私には到底認められない。

社会党の解体以降、盗聴法、住民基本台帳法の改悪、有事法制、日の丸・君が代の強制、教育基本法や憲法の改悪の動きが強まっている。私は新社会党に所属しているが、虹と緑の皆さんや、社民、共産とも力を合わせていきたい。今回は小松茂さんを予定していましたが、都合により、山下さんに変更となりました(前回の松平要さんにあらかじめご紹介いただきました)。次回に登場していただく方は現在検討中です。